

今回の長野市松代町での水生昆虫観察会では、短時間で実にさまざまな虫を見せてもらいました。私にはどれも同じように見えるのですが、専門知識を持った先生方が、鮮やかに同定していく姿に、ただただ感銘を受けました。

その中でも特に私が驚いたのが「ヒラタドロムシ」です。写真の右側の丸いのがそれです。左側は確か「タニガワカゲロウの幼虫」と教わった気がします。「ヒラタドロムシ」は円盤のような形状の生き物で、川底の石にへばりついて生活しています。まるで「遊星からの物体X」か「ブロム（アメリカのB級映画に登場する変形菌のような怪物）」のような姿です。私は一見して、この姿のまま一生を過ごすのだと思いました。

ところがこれは「幼虫時代」の姿だと聞いて、二度驚きました。成虫は巨大な円盤状の、さぞ奇っ怪な生き物だろうと思いました。しかし、成虫の写真を見せてもらって三度驚きました。それは黒い「甲虫」で、黒いカナブンかカブトムシのメスのような姿なのです。こんな水中の円盤状の生き物が、甲虫に完全変態するのですから、どこかでさなぎになっているはずです。実際に、土の中で蛹化するのだそうです。

一体この生き物は、生活史の中で「何が幸せな時」なのか、ふとそんなことを考えてしまいました。

(2023年11月下旬／長野市松代)

